

# 東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2013 秋号

## ◇◇ 記事一覧 ◇◇

第49回・福島大会を開催	1
役員会・総会	2
役員の変動	2
2012/13年度学会賞	3
受賞者のことば	4
投稿をお待ちしています	4



## 第49回・福島大会を開催

2013年8月23日、24日に、福島大学を主な会場として、第49回大会（福島大会）が開催されました。1日目の大会シンポジウムは「原子力災害と福島県農業・農村・農協」を共通論題として、会員・会員外の研究者に加え、福島県農林水産部や福島県農業協同組合中央会等、福島県内の農業現場からの報告やコメントいただき、活発な議論と意見交換が行われました。会場には、会員外からも農業者を含め多くのご参加をいただきました。シンポジウム後に大学構内で開催された懇親会にも約70名の参加があり、大いに盛り上がりました。

2日目は、午前中に個別報告が行われ、4会場で26件の発表が行われました。午後のエクスカッションでは、「福島県酪農を取り巻く状況と復興にむけた新たな展開」をテーマに、福島市内の牧場視察を行うとともに、関係者から福島県酪農の現状の説明を受け、有意義な視察となりました。両日で延べ270名を超える参加があり、盛会のうちに大会を終えることができました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

福島大会実行委員長 飯島 充男

## 役員会・総会を開催

福島大会の開催に併せて平成25年8月22日に役員会が開催され、翌8月23日に総会が開催されました。

主な内容は次の通りです。

### 1. 2012/13年度の活動について

#### (1) 会員数の動向

2013年7月31日現在

個人会員 233名

(うち一般会員 204名、学生会員 29名)

団体会員 3団体

#### (2) 2012/13年度 事業報告

2012年

8月 農村経済研究 第30巻第2号発行  
第48回 宮城大会開催（仙台市）

11月 会員名簿の発行

福島大会プレシンポジウム「ふくしま食と農の再生シンポジウム」開催（福島大学）

12月 ニュースレター2012年秋号発行

2013年

1月 科学技術情報発信・流通総合システム（JSTAGE）での会誌web公開開始

3月 2012/13年度第1回常務理事会開催（仙台市）

5月 協同組合学会第32回春季大会を共催（福島市）  
ニュースレター2013年春号発行

2012/13年度 学会賞候補者募集

2013/14年度 研究助成募集

臨時常務理事会開催（仙台市、50周年記念事業の企画検討）

6月 農村経済研究 第31巻第1号発行

7月 2012/13年度 第2回常務理事会開催（仙台市）

8月 第49回 福島大会開催（福島市）

### 2. 2012/13年度学会賞の選考について

#### (1) 学会誌賞受賞者

第30巻第1、2号掲載の論文の中から、以下のように、金成学氏、半杭真一氏の受賞が決定しました。

・金成学・朴徳秉「韓国ブロイラー産業における「生産契約」の現状と課題—H社の「相対評価方式による生産契約」を中心に—」

・半杭真一「地元育成品種による農産物ブランド化の可能性—福島県育成イチゴ品種を対象として—」

#### (2) 木下賞受賞者

以下の受賞が決定しました。

- ・奨励賞：渡部岳陽（秋田県立大学）
- ・実践賞：NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

### 3. 2013/14年度の事業について

#### (1) 事業計画

以下の内容で承認されました。

- ・ 第50回 岩手大会
- ・ 設立50周年記念事業
- ・ 岩手大会プレ・シンポジウム
- ・ 会誌発行（宮城大会特集号、福島大会特集号、論文特集号）
- ・ ニュースレター発行（2013年11月、14年5月）
- ・ 常務理事会開催（2回）

#### (2) 50周年記念事業について

- ・ 研究大会とは別立てで行う。2014年11月の金曜日開催予定。行政、JA関係機関等の参加しやすさを考慮。
- ・ 場所は仙台市内、東北大学農学部、旧教育会館、アエルなど候補予定。
- ・ 他組織、機関に協力依頼（JAグループ、東北農政局、各県農政担当部署、生協、農業法人協会、農業普及学会など）。
- ・ 会長経験者による記念講演を行う。
- ・ 記念講演後は、下記に挙げたような領域において、報告後数名で討論するセッション（60～90分）を行い、今後の東北農業の研究論点を抽出。特に若手会員中心に運営する。
- ・ セッションテーマ候補
  - 「高齢化、農村生活」
  - 「担い手≒経営者像」
  - 「農地問題」
  - 「成長分野（6次産業化、価値分配）」
  - 「支援機関（JA、普及など）」
  - 「若手研究者の確保・育成」
- ・ 50周年記念事業実行委員会を立ち上げる。委員は常務理事会メンバーに加え、各セッション毎に1名を選出する。

#### (3) その他

- ・ 編集委員会から、投稿数増加に伴い学会誌賞の受賞者を増やすこと、ジャーナルアーカイブ化に伴う執筆要領の改訂、個別報告をもとにした論文と一般投稿論文の一本化などを検討中であり、次年度の役員会・総会に提案予定。

### 4. 2013/14年度研究助成対象者の選考結果について

- ・ 申請はありませんでした。

### 5. 2013/14年度大会（2014年夏）開催地について

- ・ 岩手県での開催が承認されました。
- ・ 2013年11月16日に盛岡市においてプレ・シンポジウムを開催予定。

### 6. その他

- ・ 木下賞学術賞の受賞が近年減っているのもっと応募しやすい環境や仕組みを検討していく方向を確認した。

## 役員の変動

理事の所属および充て職で委嘱しております評議員に一部異動がありました（下線部、任期：2014年8月31日まで）。

◆会長：渋谷長生（弘前大学）

◆副会長：伊藤房雄（東北大学大学院）、小沢 互（山形大学）、関野幸二（東北農業研究センター）

◆理事：石塚哉史（弘前大学）、佐藤和憲（岩手大学）、横山英信（岩手大学）、菊地敬子（宮城県経済商工観光部）、川島滋和（宮城大学）、中村勝則（秋田県立大学）、長濱健一郎（秋田県立大学）、石澤孝司（山形県立農業大学校）、角田 毅（山形大学）、薄 真昭（福島県農業総合センター）、小山良太（福島大学）、伊藤亮司（新潟大学）、清野誠喜（新潟大学）、塩谷幸治（中央農研北陸研究センター）、磯島昭代（東北農業研究センター）、小野雅之（神戸大学大学院）、玉 真之介（徳島大学）、柳村俊介（北海道大学大学院）、吉井邦恒（農林水産政策研究所）、紺屋直樹（会長指名、宮城大学）、高橋太一（会長指名、東北農業研究センター）、渡部岳陽（会長指名、秋田県立大学）、吉仲 怜（会長指名、弘前大学）

◆評議員：三上泰正（青森県産業技術センター農林水産総合研究所）、岡山時夫（青森県農協中央会）、西山真一郎（青森県農林水産部）、及川浩一（岩手県大船渡農林振興センター）、大川 隆（岩手県農協中央会）、千葉 和彦（岩手県農林水産部）、佐藤純一（宮城県農協中央会）、高瀬 修（宮城県農林水産部）、小林郁雄（東北農政局）、鈴木 剛（秋田県農協中央会）、齋藤 了（秋田県総務部）、今田裕幸（山形県農協中央会）、阿部 清（山形県農林水産部）、樋渡和宏（山形県農林水産部）、長島俊一（福島県農協中央会）、荒川市郎（福島県農業総合センター）、大谷秀聖（福島県農林水産部）、小林 巧（新潟県農林水産部経営普及課）、高橋一成（新潟県農協中央会）、大鎌邦雄、柘植徳雄（東北大学大学院）

◆顧問：佐々木康雄（農林水産省東北農政局）

# 2012/13 年度学会賞

## 1. 選考結果と受賞理由

2012/13 年度東北農業経済学会賞（木下賞）は、奨励賞に渡部岳陽会員（秋田県立大学）、実践賞に NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（福島県二本松市）、学会誌賞に金成學会員（山形大学）・朴徳秉氏（韓国農村振興庁）、半杭真一（福島県農業総合センター農業短期大学）が決定しました。学術賞には推薦がありませんでした。受賞理由は以下のとおりです。なお、福島大会総会で表彰式が行われました。

### （1）奨励賞

◆受賞者：渡部岳陽（秋田県立大学）

◆受賞業績：「東北水田農業の担い手構造と今後の展望—秋田県の事例—」ほか地域農業の構造変動を分析した論考 3 編、「秋田県内における菜の花栽培の展開と課題」などナタネ、菜の花を中心としたバイオマス利用にかかる論考 2 編

◆受賞理由：氏は「低賃金・不安定兼業構造」のもとにある東北農業の現状について、近年の農業構造の変化を集落営農の展開と関連づけて整理するとともに、集落営農等の組織が生産性向上成果を農家に還元する一方、農家の農業生産への関与を維持する工夫を通して両者の「共存関係」を構築していること、またそれが後継世代への農業継承を支える機能を持つことを実証的に明らかにしている。さらに、菜種・菜の花による農商工連携の取り組みに関する地域経済分析、地域農業再編に関わる場の設定や体制構築に関する実証研究などの成果とも相まって、東北における農業振興課題を極めて的確に分析・把握し、振興方向を明確に提示している。こうした氏のこれまでの豊富な事例実証的研究は、東北農業経済研究の発展に少なからず寄与したものと評価でき、奨励賞の受賞に値すると判断した。今後の活躍を期待したい。

### （2）実践賞

◆受賞者：NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

◆受賞業績：里山再生、新規就農者支援における諸活動と放射能災害に対する地域復興への取り組みによって、農業農村と東北農業を勇気づける諸活動について。

◆受賞理由：「NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」は、地域資源としての農業に着目した産業振興はもとより、都市農村交流を軸とした地域活性化、健康維持等にも配慮した地域コミュニティの維持など、地域社会の活性化に向けた多方面にわたる活発な活動を展開し、また地域農業の振興にも多大な貢献を行ってきている。さらに 2011 年 3 月の東日本大震災、中でも原発事故（東京電力福島第 1 原子力発電所事故）以降も極め

て厳しい条件の下で、これまでの取り組みを活かし、放射能被害を克服するために様々な努力を重ねてきており、地域社会への貢献のみならず、被災地復興に努力する人々に勇気を与え続けている。こうした幅広い活動は、農業経済学分野を含む人文社会諸科学の領域における多くの研究論文で取り上げられるだけでなく、著作、論文発表、講演会講師など役員を中心に自ら情報発信していることは高く評価できる。その傑出した地域社会活動の実践は、東北農業・農村における地域活性化活動の 1 つの模範となるものであり、本学会の実践賞授与に相応しいと判断した。

### （3）学会誌賞

◆受賞者：金成學（山形大学）・朴徳秉（韓国農村振興庁）

◆受賞論文：「韓国ブロイラー産業における「生産契約」の現状と課題—H社の「相対評価方式による生産契約」を中心に—」（第 30 巻第 1 号）

◆受賞理由：本論文は韓国ブロイラー産業の垂直統合の新たな形態である「相対評価方式による生産契約」について H 社を事例にその経済性を生産性と契約農家の収益を分析したものである。絶対評価から相対評価に変更した結果、契約農家の飼料要求率、雛の育成率、肥育期間、肥育回転数は大きく改善され、平均飼養報酬額は 48% 増加、規模拡大が進む農家の平均粗収益は 3.7 倍に増加し、相対評価方式が高い経済性を有していることを明らかにする一方で、農家の過当・無限競争をエスカレートさせる危険性もあることを明らかにしている優れた論文と評価した。

◆受賞者：半杭真一（福島県農業総合センター農業短期大学）

◆受賞論文：「地元育成品種による農産物ブランド化の可能性—福島県育成イチゴ品種を対象として—」（第 30 巻第 2 号）

◆受賞理由：本論文は福島県で育成・ブランド化を進める「ふくがる香」を事例に、地元消費者アンケートを実施し、共分散構造分析で消費者行動を分析したものである。「好意的な態度の形成が購入意向に結びつくこと」、「地元に対するロイヤルティが地元育成品種であることへの因果関係があり好意的な態度につながること」、「探索的な行動様式も好意的な態度に影響していたこと」を明らかにしている一方で、ブランド化にはこれらの影響が相対的に大きなものではないことも明らかにしている優れた論文と評価した。

## 受賞者のことば

◆奨励賞：渡部岳陽（秋田県立大学）

この度は思いも掛けず東北農業経済学会木下賞（奨励賞）を賜り、関係者の皆様に御礼申し上げます。大学院生時代から一貫して東北農業を対象に研究を進めてきた自分にとりまして、この度の受賞は大変光栄なことであると身にしみて感じております。受賞対象となった研究では、国の進める農業構造再編の方向性とは異なる「農民協同的」地域農業再編の合理性・有効性について分析を行いました。TPPや減反見直しなど、ますます地域農業を取り巻く環境は厳しいものとなりますが、一研究者として東北地域農業の発展に向けて微力ながら精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

◆実践賞：NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（理事長 大野達弘）

この度は思いも掛けず東北農業経済学会木下賞（実践賞）を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

私たちは里山の恵みと人の輝くふるさとづくりをめざし、ひとの健康、土の健康、地球の健康づくりの里山再生プロジェクトを推進してきました。

また、新規就農希望者の受け入れによる地域の農業の活性化と2013年3月に発生した福島第一原子力発電所の放射能事故から、地域農業の復興再生に向けた取り組みとして各種実態調査等をしてきました。

受賞を機に、有機農業による土づくりや東和げんき野菜の約束ごとなどを確たるものにするため、一層の研鑽を重ね精進してまいる所存です。

放射能による未曾有の大災害を受け、あらためて自然や中山間地域等の重要性を認識するにいたり、一層環境に配慮した循環型国土の形成に寄与して参る考えであります。

今後とも関係各位のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

◆学会誌賞：金成學（山形大学）

この度は名誉ある東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を賜り、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。受賞対象となった「韓国ブロイラー産業における生産契約の現状と課題」は韓国ブロイラー産業を対象に「相対評価方式による生産契約」の実態と方向性を明らかにしようとした論文であります。農業のグローバル化と共に、世界的に契約型農業が拡大しつつあり、契約形態も進化を見せています。しかし今回の「韓国ブロイラー」や数年前に公表した「アメリカ養豚の垂直調整」でも述べたように、契約内容を巡る紛争が激化するなどその課題も顕著になっています。情報アクセスへの制約などで思うように進んでいる状況とは言えませんが、今後、日本、中国の契約農業についても分析を加え、契約農業の

モデル構築に一助できればと思います。学会の皆さま、引き続きご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。最後に、本論文の投稿に当っては査読者の方々からは貴重なコメントをいただき、内容の大幅な改善ができました。この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。

◆学会誌賞：半杭真一（福島県農業総合センター農業短期大学校）

この度は思いも掛けず東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を賜り、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。受賞の対象となった論文は、福島県が育成したオリジナル品種の生産振興を目的として、地元で育成されたことが消費者にどのように評価されるのか明らかにするため、地元産であることに対する評価が消費者の好意的な態度を形成し、購入意向につながるモデルを構造方程式モデリングを用いて定量化することを試みたものです。こうした公設試ならではの視点での研究に評価をいただいたことは、大変うれしく、また、励みになりました。今後もなお一層精進してまいる所存でございますので、御指導よろしく願いいたします。

## 投稿をお待ちしています

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大 22,000 字（印刷頁数で 12 頁）が目安です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』  
編集担当理事 横山英信  
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34  
岩手大学人文社会科学部  
Tel/Fax : 019-621-6777  
E-mail : yokoyama@iwate-u.ac.jp



### 編集後記

◆ニュースレターをお届けします。発行が大幅に遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。◆本学会は、現場に近い方々が加入している特徴を有しますが、それを活かしているでしょうか。設立 50 周年を機に、会員に提供しうるサービスについて、改めて見つめなおす必要があると感じています。◆次号 2013 年春号は 5 月発行予定です。(N)